

る。幼稚園を経営するより、補助のもらえる保育所の方が経営しやすいという考えが当局にあったり、その区別を知らずに、保育所を幼稚園と呼んでいる人もたくさんある。だから、代用幼稚園的保育所が多く、当然幼稚園に出るべき幼児を收容し、全く幼稚園と同じような保育をしている保育所もかなりある。保育所は全県下に約百七十あり、優に幼稚園の六倍近くに達する状況である。

次に、これはごく少数であるが、無認可幼稚園というのがある。これは、内容が必要な基準に達していないために、正式に幼稚園の取扱いを受けていないが、看板だけは幼稚園を名乗っているもので、しかも町立のものである。正式の幼稚園として運営するだけの予算をとってもらえぬらしい。これは違法行為でもあり、幼児も可哀想だし、職員も、教職員としての身分が保証されず、又、何年勤めても、免許法上の勤務年数とまらないので、上級免許状が取得できない。

以上のような状況で、極めて不完全な教育しか受けられない幼児が多く、これらを含めても、該当年令の幼児の約半数は、このような施設を経ずに、家庭から直接小学校へ進学

することになる。右については、早急に次のような対策が必要である。

①無認可幼稚園は、即時施設を充実し、認可を受ける必要がある。②代用幼稚園的保育所は、漸次幼稚園に組織替える必要がある。③各小学校校区に、少くとも一園は幼稚園を開設する必要がある。右のうち、①と②は、既にある施設に若干の改善を加えることによって可能だから、経費は必ずしも多くを要しない。要は、やる気があるかないかという問題である。③は、全くの新設ならかなり経費がかかるが、若し小学校に余った教室があれば、これに若干の施設、設備を整え、必要な専任教員を置くだけでできる。松江市では、市立幼稚園の新設は③の方式が多く採られている。この場合、正式の幼稚園になるまでの準備期間は、幼稚園という看板がかかけられる。又若し必要な部屋がない時は、できるまでの間、「幼児学級」と称して、一週二―三回程度、午後、小学校の一年生が下校した後の教室を利用して保育が行われるものもある。これらは何れも幼稚園設立の準備期的なもので、とにかく、こうして次々に幼稚園が新設されることは喜ばしい。他の地区でも是非こうありたい。

			ド
			イ
平			ツ
井			
	信	便	
	義	り	

○ お買物

皆さんのお家ではパンが欲しい、サイダーが飲みたいと思うと、チリチリンと電話をかけさえすれば、「ヘイ毎度ありがとう」といって小僧さんが持ってきてくれるでしょう。又、好きな時間にどこのお店にいつでも大抵「いらっしやい」「何、おいりようですか」と迎えてくれますね。ところが僕のいるドイツではそうはいきません。御用聞きは殆んどありません。何しろお家のお室までいって御用をきくまでに三つも鍵をあけてもらわなければならぬのですから。僕が朝食べるパンは届けてはくれますが、門の脇のポストの中に入れてあるのです。お買物の時間も、朝八時か九時頃から一時までが一と区切り。ですから一時半頃バターか陽話を賣おうとお店の戸を押してもあかないお店が沢山あります。

経営および研究活動

経費の面から見ると、保育料が、公立は四百円程度、私立が五百円程度で、これに、P・T・A会費、材料費その他を加え、最低月五百円から最高七百五十円程度を徴収している。私立の場合は勿論これで職員の手給はじめ一切の経費がまかなわれる。公立の場合、給与が市町村から出るほか若干の予算はあるが、これだけでは少いので、P・T・Aからも、園経営の費用を出しているのが現状である。松江市の場合、私立幼稚園に対して市から若干の助成金が出る。「幼稚園がもうけがいいか、風呂屋がもうけがいいか」と、某大都市で言われているとか、そんなことを聞いたことがあるが、島根県の場合、それはあてはまらない。どの幼稚園もぎりぎりの苦しいやりくりで、やっと切り抜けている。私立といっても、設立者(役員)は皆無給だし、全部が地域の幼児教育のためのサーヴィスで、だから私立も公立も保護者からの納金はあまり違わない。園長は、ごく特殊な幼稚園を除いては国・公・私立共、その校区の小学校長の兼務となっており、無給である。専任園長は、県下に一人しかない。従って、園の実際の運営は、

主任教諭が行っている。経済的に苦しいので主任でも一組担当している場合が多く、事務職員を置いている幼稚園は少ない。又、養護教諭を置いている幼稚園は皆無である。従って、各園共かなり忙しい。

全体に一年保育が最も多く、中には一年保育だけの幼稚園もあるが、ごく一部に、三年保育を行っているところもある。

研究活動はかなり盛んで、島根県幼稚園教育研究会(国・公・私立を含む)にすべてが結集され、一年一回以上、県内のほとんどの幼稚園教員が集る研究会を開くほか、全県を五つのブロックに分け、ブロック毎の共同研究が行われる。松江市では、松江市幼稚園連盟の組織があり、毎月一回以上全員の研究会を行うほか、研究発表・保育公開などを、相互に、ひんばんに行っている。講習会なども毎年数回開催されるが、特色のあるのは、毎年五月に開催される「幼児教育振興大会」で、これは、第一日は全県下の幼稚園教員を対象とし、第二日は、このほかに全松江市内の母親を加え、講演会を開く。この大会は、有効な啓蒙運動の機会になっている。

(島根大学教育学部付属幼稚園)

一時から三時までは大人もお昼寝、お店もお昼寝です。そして、三時からきっちり七時までが次の時間です。七時をすぎると、せわしうに一日のお勘定を計算して、戸に鍵をかけてしまします。お店の中にはあかあかと電気がついていて、「あの棚にはチーズがあるぞ」と見えていても、鍵がかかっているし、人も奥の方に引込んでしまつています。ですからお買物が出来ません。それに、日曜日はお店も全くお休みです。何にも買えません。ですから土曜日にすっかりお買物をすませておなくてはならないのです。その土曜日五時までです。うっかり本を読みすぎて慌ててパンを買いにいきましたら戸は押せどもあきません。とうとう日曜の朝はバターをなめコーヒを飲んだだけのことがあります。日曜日は新聞もきません。手紙も配達してくれません。家でお寝坊をするか、散歩をするか、教会にいくかです。お買物の点では日本はずい分便利です。しかし、そのためにお店の人がからだを休めることが少く、家の中で楽しいお話し合いの時間も少く、こころのゆとりということでは、ずい分損をしているのではないかと思います。(十一月三日)